

事業所名：地域密着型小規模特別養護老人ホーム なつぼ

運営推進会議開催報告書 ①

開催日時

令和 5 年 9 月 16 日 (土) 10:00~11:00

参加者

入居者： 0名、家族：4名

地域包括支援センター： 1名

事業所： 6名

議題 内容

参加者自己紹介、施設長挨拶

同日、河内地区での地域行事が開催されている。

1、地域密着型特別養護老人ホームなつぼ 運営状況。

①令和4年度アクシデント、インシデント報告について

別紙資料によりご報告、転倒転落事故41件。薬65件。怪我35件。その他66件。

(1) 転倒、転落事故について

骨折にまで至る怪我也出ている状況。開所より経過を見てきており、骨折事故は減少傾向。センサー類の導入を進め、他施設より設置は多い状況。全利用者に設置している状況ではないが、必要者の選定はアセスメントを行っている。

→ご家族より質問：夜間帯の事故が多いのか？

→一概に夜間が多い状況ではない。夜間スタッフは少ないが、寝ている利用者も多い。日中に事故がないわけではない。

(2) 薬について

落薬の事故報告が最も多い。誤薬事故については、服薬介助時の注意が最も必要になる。

→ご家族より質問：命にかかわる部分、個人ごとに理解し対応する必要があるのではないか？

→口腔内からの吐き出し等、ご本人特性を配慮した服薬支援をする必要があり、確認共有しながら進めている。錠剤がのみづらければ粉剤にしたり、粉剤をトロミ水で提供したりと個人に対応している。配薬時の管理も2重の確認が数回入るようにしている。服薬介助の際の注意が必要。介助途中での他の事柄に注意を向けられないような（他に呼ばれても中途半端な対応をしない）、他の事をやる際は服薬介助をはじめに戻すことが必要で、そのように取り組んでいる。職員の置かれた状況、忙しさやメンタルにも注意を向けて状況確認している。

(3) 怪我について

怪我の報告の中ではあざの報告が最も多い。痣が出たときはご家族に大きさをcmで報告している。どのようにどこでと環境を確認していくか不明瞭な場合もある。介助を丁寧に提供していく。

2、皆様からのご要望、ご意見、お知らせしたい情報等

コロナ感染症についての状況はどうか？面会制限等はそのままか？

施設では感染対策委員会で検討してきている。9月の状況では前月までの対応を継続としており第9波と言われている状況も注視している。面会を再開にして利用者様の表情をみると面会は制限したくないが、コロナ感染症は生命にもかかわる。月2回の面会制限で継続としている。

議題 内容

続

2、各参加者意見交換

- ・利用者ご家族がテレビ取材を受け放送で拝見したがどういった様子だったのか？
→孫（ご家族からすると子）が駅前取材を受けて、田舎での田植え取材したいとなり放映された。施設に面会にたまに来るひ孫も映っていたと思うが、今の若い世代は田植えはやってきていない。昔は一家総出のイベントだったが。コロナで施設に面会に行けない間に、ひ孫は施設に行くのを嫌がる様子が出てきた。今は周りに高齢者がいない、しわしわで変わった様子に見えるのかもしれない。いろいろ、放映されてない所でもエピソードがあった。面会ができるときにはきたい。
- ・CMより面会が減っている中でご家族様にも些細な変化を伝えていければと思っている。
- ・少ない面会の中でも、来た時に職員の方から「穏やかに過ごしていますよ」と伝えられることが安心になっています。

次回、11月18日10:00からを予定しています。